長崎県内の乳がん検診の実績について

2026.1.19

長崎県保健医療対策協議会
がん対策部会乳がん委員会

●実績データについて

厚生労働省（令和7年3月公表）
「令和5年度　地域保健・健康増進事業報告」より集計

プロセス指標	参照年度（最新）
受診率	令和 5年度
要精検率 精検受診率 陽性反応適中度 がん発見率	令和 4年度

※「地域保健・健康増進事業報告」は、地域（市区町村）で実施された事業報告のため、
職域で実施された検診（人間ドック含む）は含まない。

※集計年齢は、公表値に準じて「40～69歳」とする。
ただし、長崎県内では70歳以上の受診者数が多いため、一部参照データとして示す。

◆地域保健・健康増進事業報告の流れ

翌年度（6月末頃）　⇒　⇒　⇒　翌々年度（6月末頃）

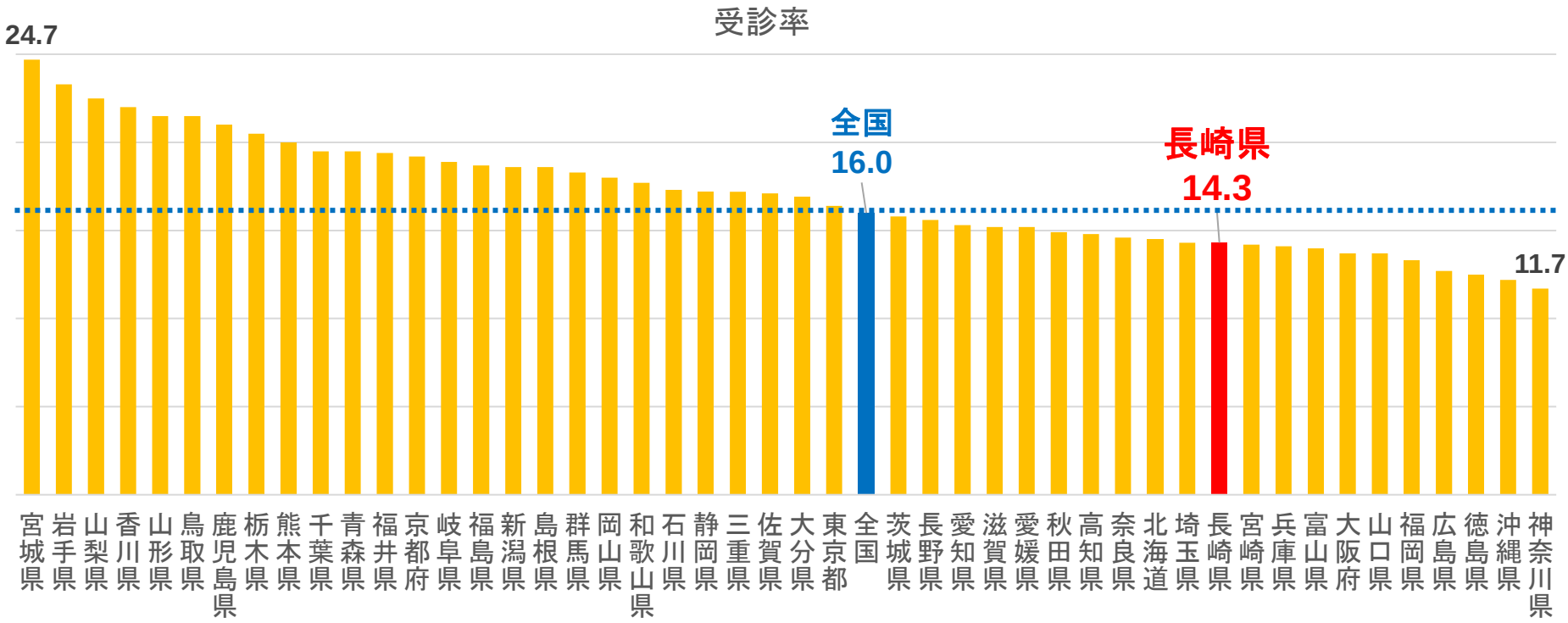
検診実績報告　（精検結果の把握）　精検結果報告

1.乳がん検診受診率の状況

1) 全国順位

地域保健・健康増進事業報告（厚労省）公表値によると、
令和5年度（長崎県）は14.3%で、全国平均16.0 %を下回り、全国37位。

受診率＝（当該年度受診者数＋前年度受診者数―2年連続受診者数）／当該年度対象者数＊100



2) 年次推移（全国、長崎県）

受診率＝（当該年度受診者数＋前年度受診者数―2年連続受診者数）／当該年度対象者数＊100

年度	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
全国	26.1	20.0	18.2	17.4	17.2	17.0	15.6	15.4	16.2	16.0
長崎	28.1	22.6	15.7	18.3	15.6	15.6	14.0	13.3	14.1	14.3

検査項目：視触診及びマンモグラフィ → マンモグラフィ

算出年齢：40～69歳（～H24「40歳以上」）

対象者：「就業者数」を除外しない

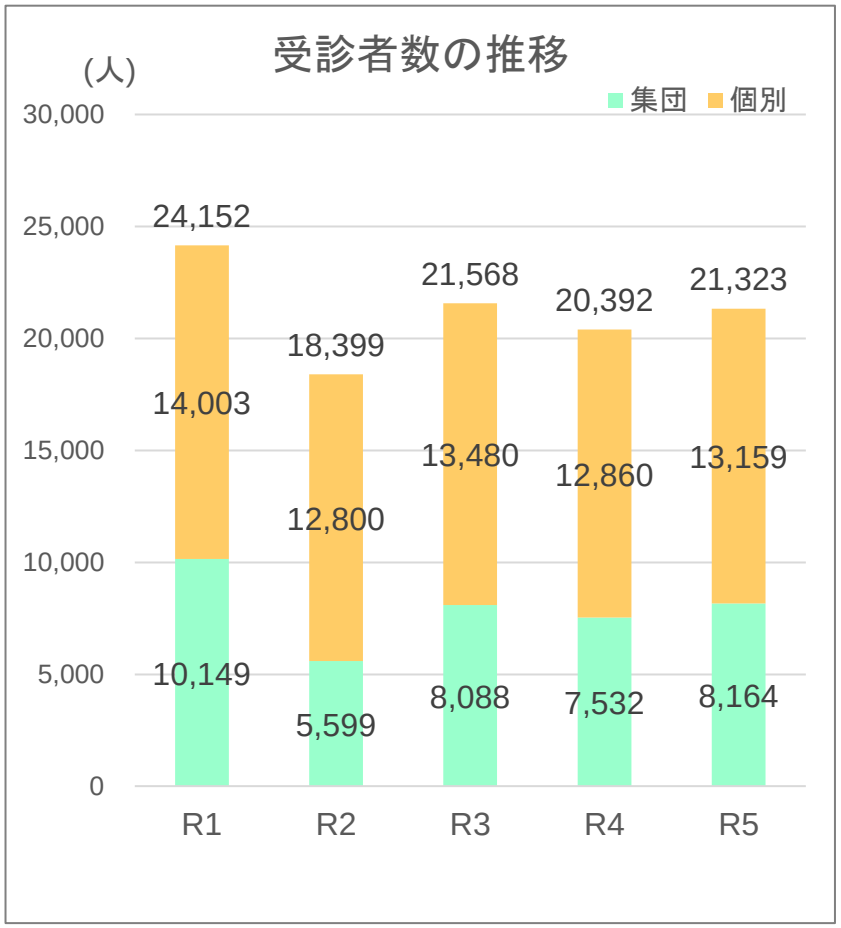
※算出年齢、対象者の計上方法が年度によって変更されているので、H27年度以前の経年的な比較はできない。

※受診率が比較可能なH28以降で比較すると、全国・長崎ともにR2・R3は減少していたが、R4から増加しつつあるが、R1までは回復していない。

2. 乳がん検診受診者数と受診率（40～69歳）

1) 受診者数の推移

受診者数は、年々減少している。 R2年度に大きく減少（特に集団）し、R3年度以降は増減を繰り返し、R5年度は回復傾向にある。個別検診が多い。



(40-69歳)	R1	R2	R3	R4	R5
集団	10,149	5,599	8,088	7,532	8,164
個別	14,003	12,800	13,480	12,860	13,159
合計	24,152	18,399	21,568	20,392	21,323

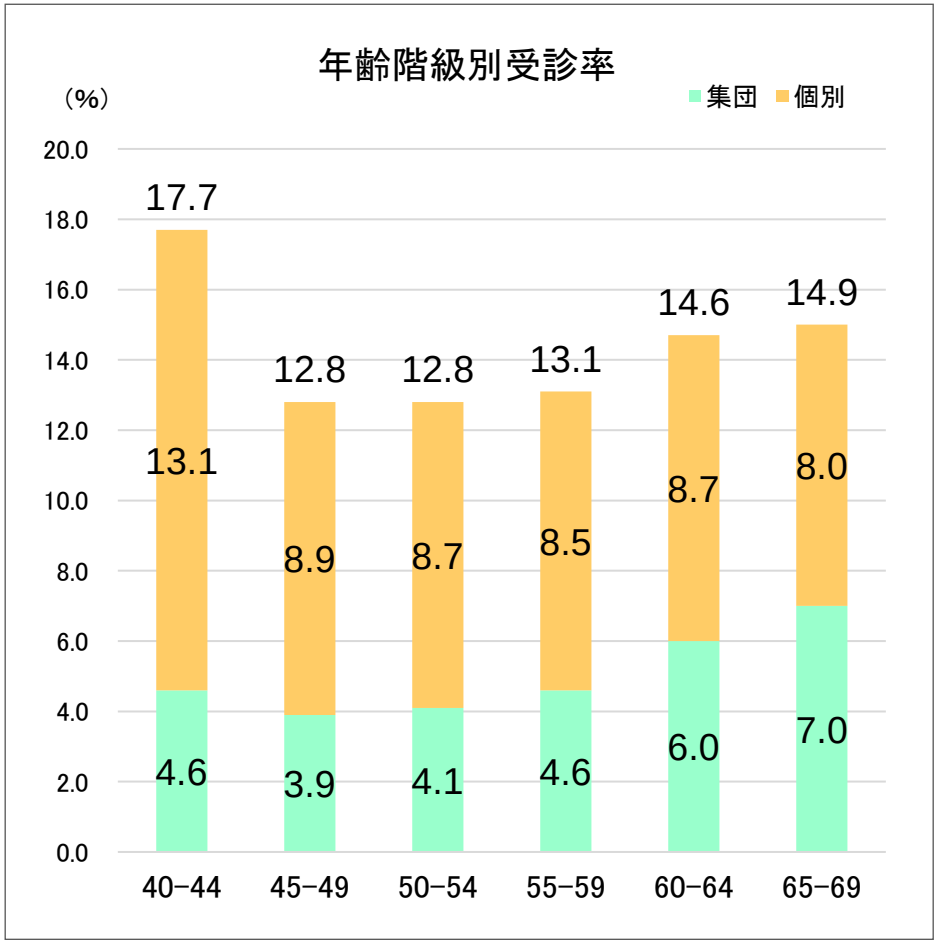
【参考】

(全年齢)	R1	R2	R3	R4	R5
集団	14,726	8,265	12,070	11,370	12,571
個別	17,273	15,718	16,881	16,400	16,808
合計	31,997	23,983	28,951	27,770	29,379

地域保健・健康増進報告（厚労省）

2) 令和 5年度年齢階級別受診率

受診率は、40～44歳が最も高く、45歳以上では年齢階級が上がるにつれて、受診率が高くなる傾向がみられた。
集団検診では年齢階級が上がるにつれて受診率が高くなる傾向がみられた。



年齢階級	区分	対象者数	受診者数	受診率
40-44	集団	36,946	1,026	4.6
	個別		2,711	13.1
	計		3,737	17.7
45-49	集団	41,761	989	3.9
	個別		2,003	8.9
	計		2,992	12.8
50-54	集団	44,415	1,103	4.1
	個別		2,089	8.7
	計		3,192	12.8
55-59	集団	42,785	1,244	4.6
	個別		1,997	8.5
	計		3,241	13.1
60-64	集団	45,296	1,624	6.0
	個別		2,215	8.7
	計		3,839	14.6
65-69	集団	49,432	2,178	7.0
	個別		2,144	8.0
	計		4,322	14.9

地域保健・健康増進報告（厚労省）

3.令和 4年度乳がん検診成績

1) 令和 4年度乳がん検診成績　（40～69歳）

	区分	受診者数 A	要精検者数 B	要精検率 B/A	精検受診 あり C	精検受診率 C/B	精検受診 なし D	精検未受診率 D/B	精検受診 未把握 E	精検未把握率 E/B	精検結果別人数 異常なし F	がん G	早期がん H	非浸潤がん I	がん疑い及び未確定 J	がん以外の疾患 K	陽性反応適中度 G/B	がん発見率 G/A	早期がん割合 H/G	非浸潤がん I/G
長崎県	集団	7,532	372	4.9	356	95.7	8	2.2	8	2.2	133	36	21	6	8	179	9.68	0.48	58.3	16.7
	個別	12,960	1,326	10.2	1,133	85.4	43	3.2	150	11.3	519	44	23	7	44	526	3.32	0.34	52.3	15.9
	合計	20,492	1,698	8.3	1,489	87.7	51	3.0	158	9.3	652	80	44	13	52	705	4.71	0.39	55.0	16.3

【参考】

70歳以上	集団	3,838	128	3.3	121	94.5	0	0.0	7	5.5	58	17	14	2	1	45	13.28	0.44	82.4	11.8
	個別	3,564	268	7.5	244	91.0	7	2.6	17	6.3	106	32	15	4	10	96	11.94	0.90	46.9	12.5
	合計	7,402	396	5.3	365	92.2	7	1.8	24	6.1	164	49	29	6	11	141	12.37	0.66	59.2	12.2

地域保健・健康増進報告（厚労省）

2) 令和 4年度乳がん検診成績（40～69歳）（初回受診者）（再掲）

※初回受診者：過去3年間（R1・R2・R3)に受診歴のない者

	区分	受診者数 A	要精検者数 B	要精検率 B/A	精検受診 あり C	精検受診率 C/B	精検受診 なし D	精検未受診率 D/B	精検受診 未把握 E	精検未把握率 E/B	精検結果別人数 異常なし F	がん G	早期がん H	非浸潤がん i	がん疑い及び未確定 J	がん以外の疾患 K	陽性反応適中度 G/B	がん発見率 G/A	早期がん割合 H/G	非浸潤がん I/G
長崎県	集団	2,388	170	7.1	162	95.3	4	2.4	4	2.4	47	14	8	3	3	98	8.24	0.59	57.1	21.4
	個別	5,545	721	13.0	582	80.7	24	3.3	115	16.0	234	24	10	4	27	297	3.33	0.43	41.7	16.7
	合計	7,933	891	11.2	744	83.5	28	3.1	119	13.4	281	38	18	7	30	395	4.26	0.48	47.4	18.4

【参考】

70歳以上	集団	714	39	5.5	36	92.3	0	0.0	3	7.7	15	5	4	0	1	15	12.82	0.70	80.0	0.0
	個別	1,052	138	13.1	127	92.0	3	2.2	8	5.8	43	29	13	3	3	52	21.01	2.76	44.8	10.3
	合計	1,766	177	10.0	163	92.1	3	1.7	11	6.2	58	34	17	3	4	67	19.21	1.93	50.0	8.8

地域保健・健康増進報告（厚労省）

3) 令和 4年度乳がん検診成績（年齢階級別）

年齢階級	受診者数 A	要精検者数 B	要精検率 B/A	精検受診 あり C	精検受診率 C/B	精検受診 なし D	精検未受診率 D/B	精検未把握 E	精検未把握率 E/B	精検結果別人数 異常なし F	がん G	早期がん H	非浸潤がん I	がん疑い及び未確定 J	がん以外の疾患 K	陽性反応適中度 G/B	がん発見率 G/A	早期がん割合 H/G	非浸潤がん I/G
40-44	3,409	387	11.4	330	85.3	11	2.8	46	11.9	130	8	3	1	18	174	2.07	0.23	37.5	12.5
45-49	2,881	306	10.6	266	86.9	11	3.6	29	9.5	100	5	3	2	6	155	1.63	0.17	60.0	40.0
50-54	3,120	285	9.1	246	86.3	7	2.5	32	11.2	105	10	6	0	4	127	3.51	0.32	60.0	0.0
55-59	3,111	202	6.5	187	92.6	4	2.0	11	5.4	94	8	5	1	3	82	3.96	0.26	62.5	12.5
60-64	3,697	251	6.8	223	88.8	8	3.2	20	8.0	100	23	13	5	9	91	9.16	0.62	56.5	21.7
65-69	4,274	267	6.2	237	88.8	10	3.7	20	7.5	123	26	14	4	12	76	9.74	0.61	53.8	15.4
合計	20,492	1,698	8.3	1,489	87.7	51	3.0	158	9.3	652	80	44	13	52	705	4.71	0.39	55.0	16.3

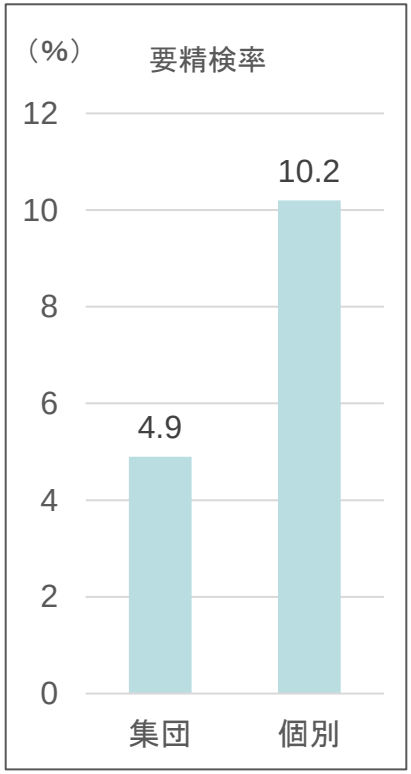
【参考】

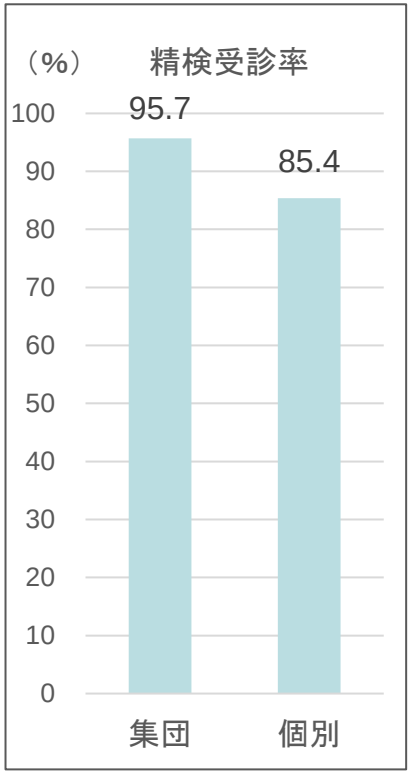
70歳以上	7,402	396	5.3	365	92.2	7	1.8	24	6.1	164	49	29	6	11	141	12.37	0.66	59.2	12.2

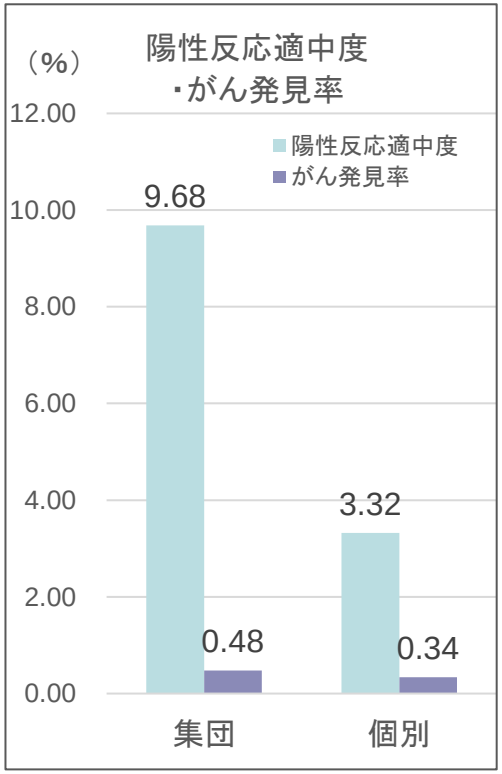
地域保健・健康増進報告（厚労省）

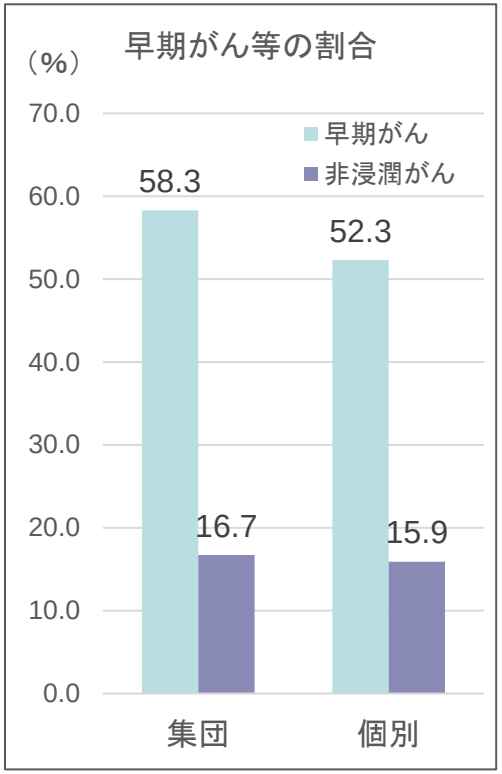
4) プロセス指標の集団と個別の比較

- 要精検率は、集団検診より個別検診が高かった。
  精検受診率は、個別検診より集団健診が高かった。
  陽性反応適中度は集団検診が高かった。
  発見がんに占める早期がん割合は、個別検診より集団検診がやや高かった。







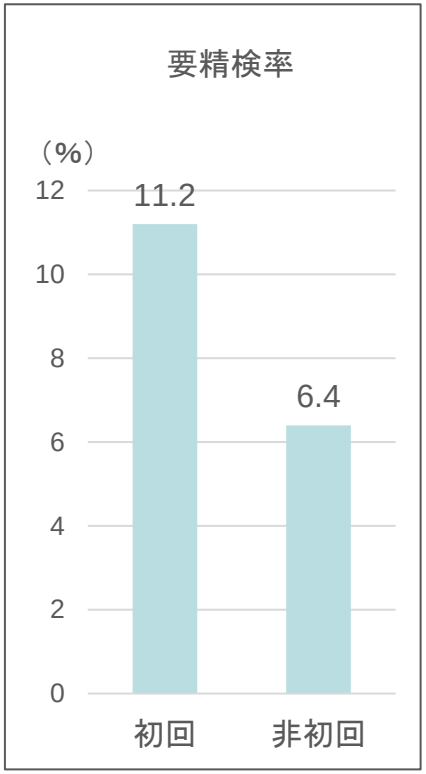


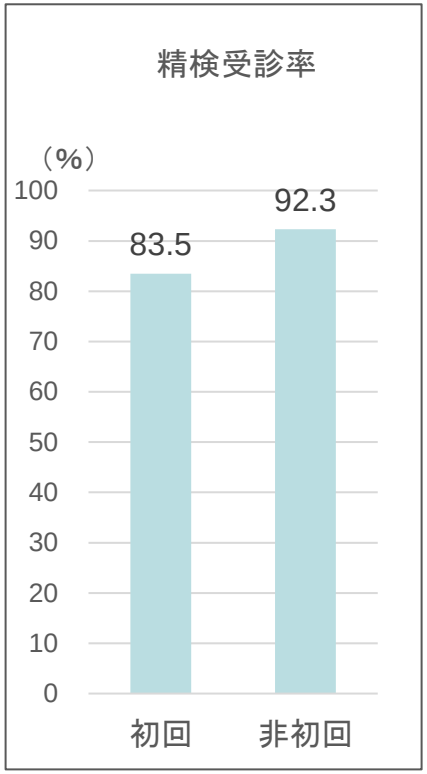
地域保健・健康増進報告（厚労省）

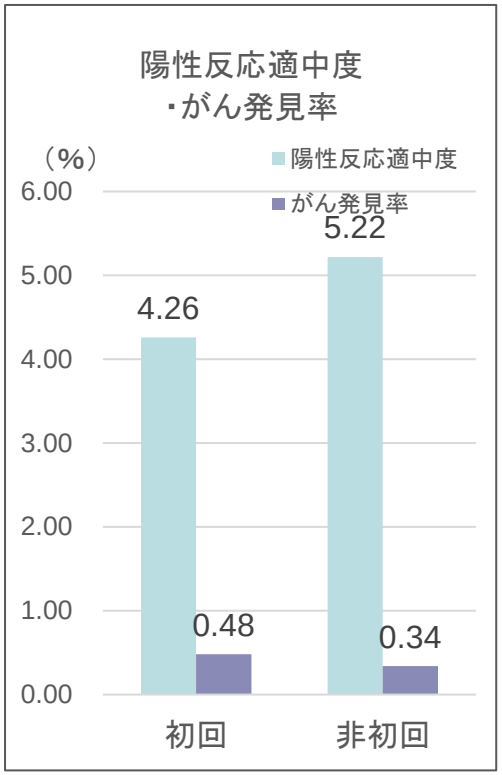
※初回受診者：過去3年間（R1・R2・R3)に受診歴のない者

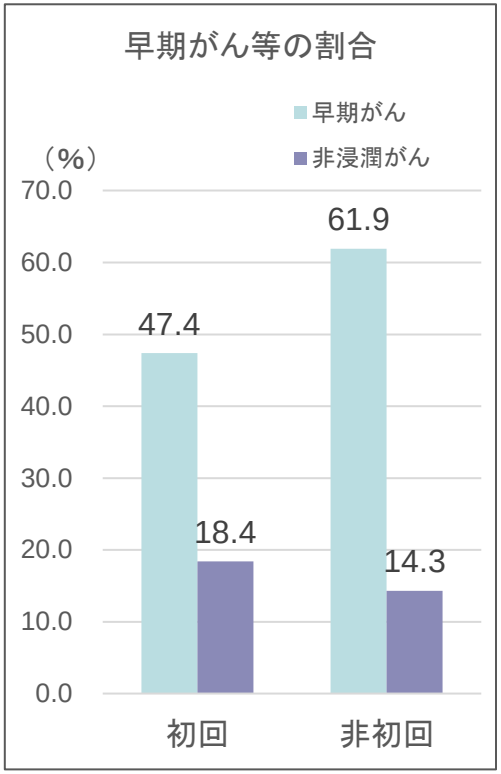
5) プロセス指標の受診歴別（初回・非初回）の比較

- 要精検率は、非初回より初回が高かった。
- 精検受診率は、初回より非初回が高かった。
- 陽性反応適中度は、初回よりも非初回が高く、がん発見率は非初回より初回が高かった。
- 発見がんに占める早期がん割合は、初回より非初回が高かった。







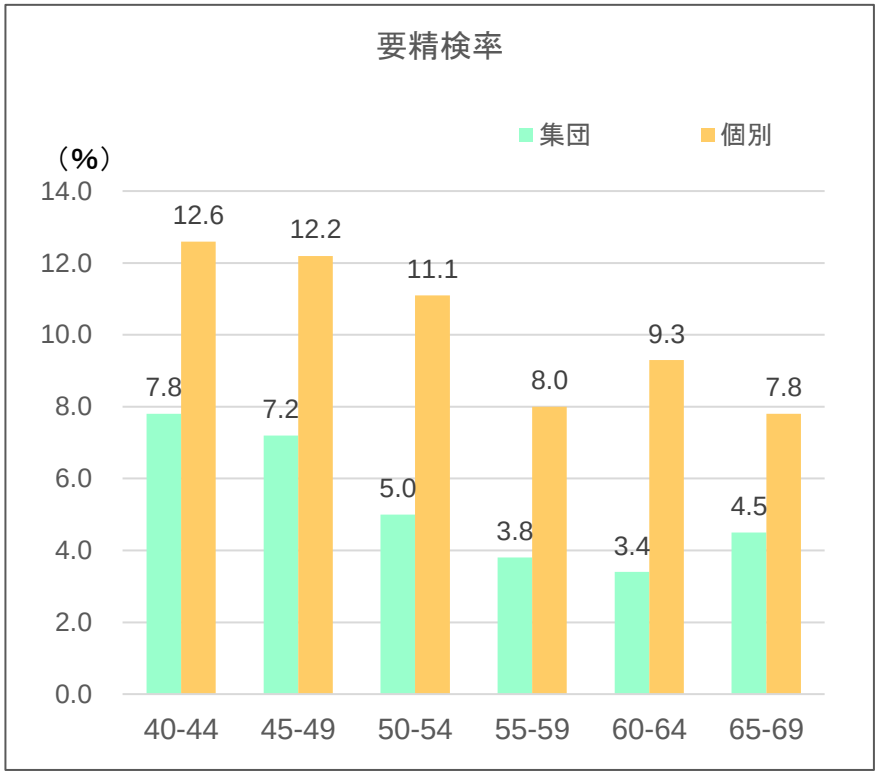


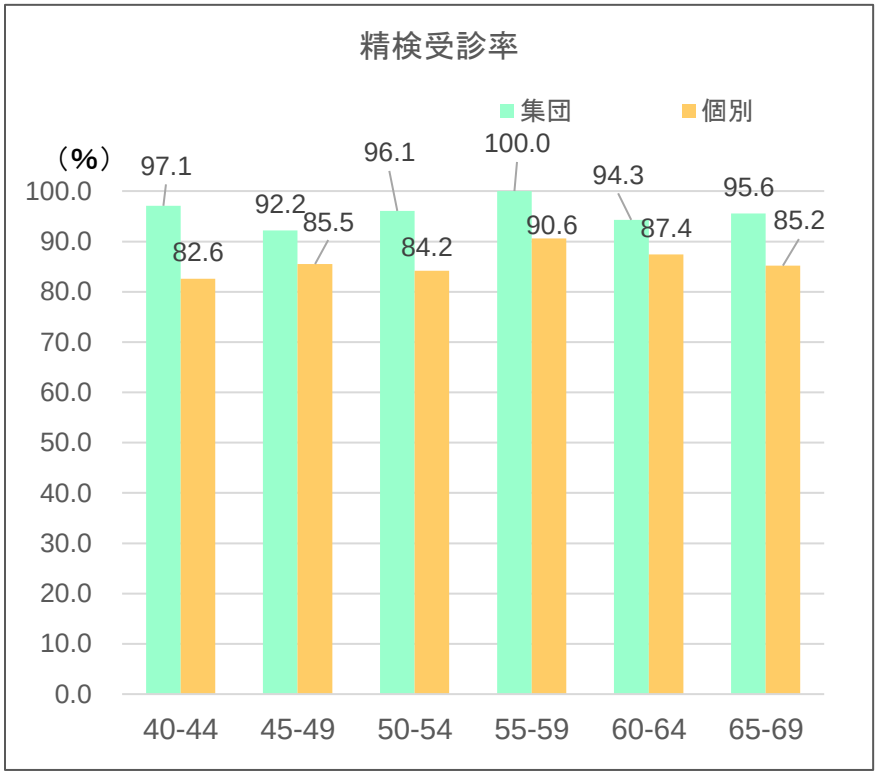
地域保健・健康増進報告（厚労省）

6) 年齢階級別の比較

要精検率は、全ての年代で個別検診のほうが高く、また、年齢階級が上がるにつれて低くなる傾向がみられた。

精検受診率は、集団検診は90%を超えているが、個別検診では90%を下回っていた。

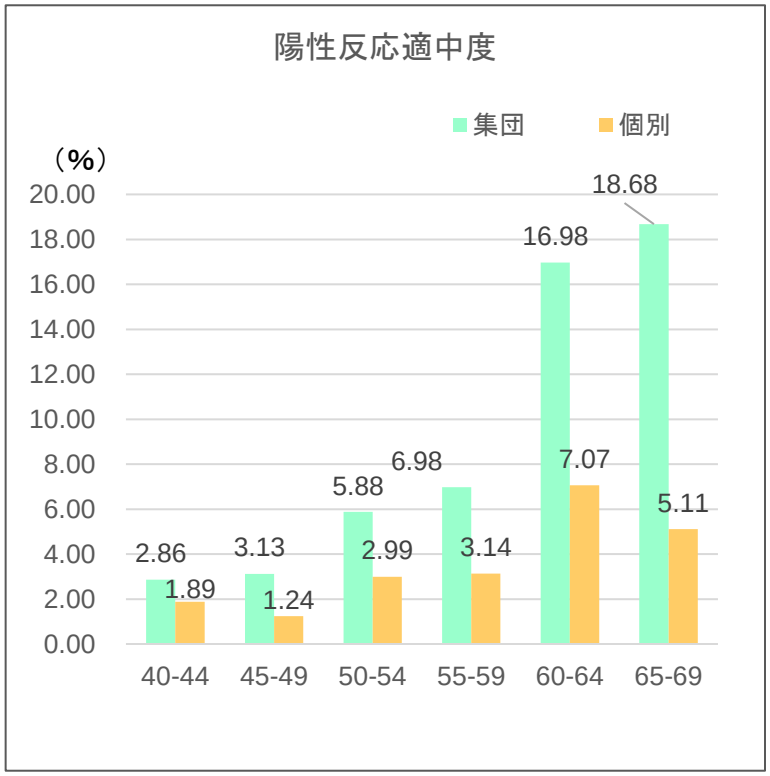


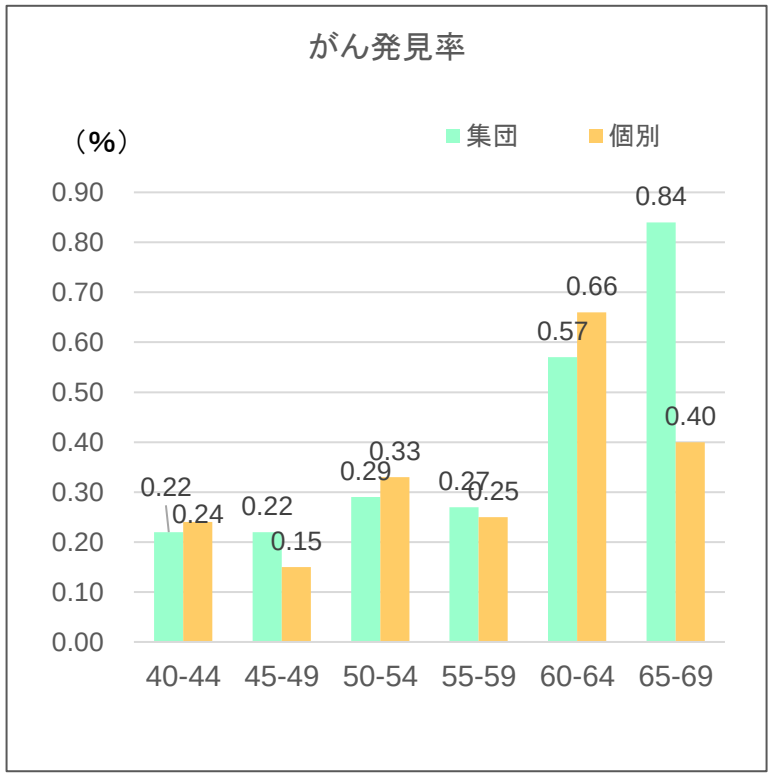


地域保健・健康増進報告（厚労省）

陽性反応適中度は、すべての年代で集団健診が高く、また、年齢階級が上がるにつれて高くなる傾向がみられた。

がん発見率は、ばらつきがあるが、40～50歳代よりも、60歳以降が高い傾向がみられた。





地域保健・健康増進報告（厚労省）

▶4.国の示す基準値

平成20年に設定
令和5年6月改訂により新基準値へ変更

	胃がん（エックス線）		大腸がん	肺がん（1年間隔）		乳がん（2年間隔）		子宮頸がん		
	2年間隔	1年間隔			検診以外の受診を考慮		連続受診を考慮			
対象年齢	50-69歳		40-69歳	40-69歳		40-69歳		20-69歳	20-39歳	40-69歳
算出に用いた感度*	60%以上		60%以上	50%以上		40歳代：60%以上 50歳代：70%以上 60歳以上：80%以上		65%以上		
要精検率	7.1%以下	7.0%以下	6.2%以下	2.0%以下	2.0%以下	6.8%以下	6.8%以下	2.7%以下	4.2%以下	2.0%以下
現在の許容値	11.0%以下		7.0%以下	3.0%以下		11.0%以下		1.4%以下		
精検受診率	90%以上									
がん発見率*	0.13%以上	0.08%以上	0.16%以上	0.06%以上	0.03%以上	0.38%以上	0.29%以上	0.16%以上	0.18%以上	0.15%以上
現在の許容値	0.11%以上		0.13%以上	0.03%以上		0.23%以上		0.05%以上		
陽性反応適中度*	1.9%以上	1.1%以上	2.6%以上	3.0%以上	1.6%以上	5.5%以上	4.3%以上	5.9%以上	4.4%以上	7.4%以上
現在の許容値	1.0%以上		0.19%以上	1.3%以上		2.5%以上		4.0%以上		
非初回受診者の2年連続受診者割合**						30%		40%		

乳がんの指標

*子宮頸がんはCIN3以上に対する値　　**国民生活基礎調査から算出したおおよその現状の値

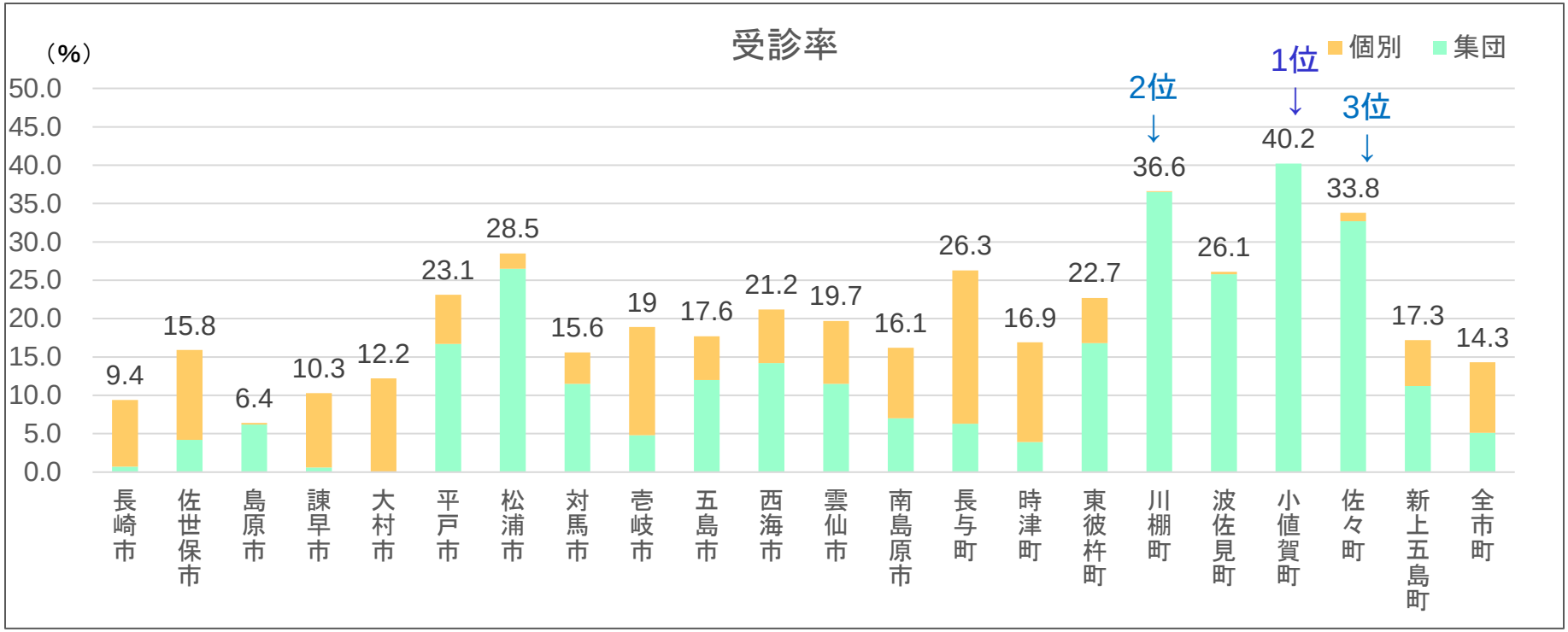
5.精度管理(プロセス指標)の意味と解釈

1) 令和 5年度市町別受診率

●受診率＝(当該年度受診者数＋前年度受診者数－2年連続受診者数)／対象者数
●目的:がん検診の対象者のうち、実際の受診者の割合。受診率は高いことが望ましい。
●低い場合に考えられる原因
・受診勧奨が不十分

・市町が地域のがん検診として実施した分のみ計上。
・職域における受診者数は含まれていないことから、単純に比較することはできない。

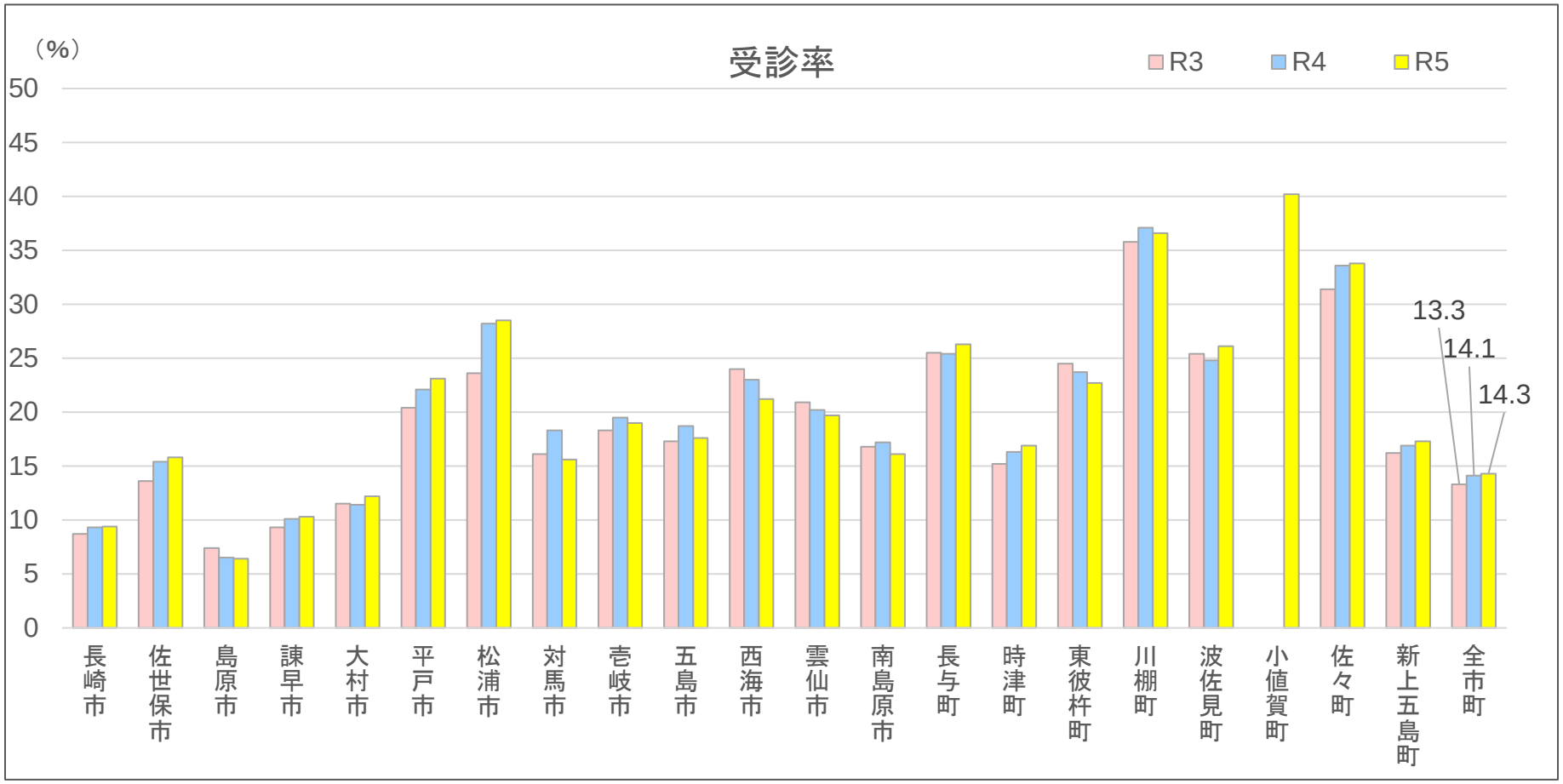
・市町によりばらつきが多い。最も高い市町で40.2%、最も低い市町は6.4%であった。
・県全体として14.3%であった。



2) 年度別市町別受診率

●前年度より上昇している市町：長崎市・佐世保市・諫早市・大村市・平戸市・松浦市・
長与町・時津町・波佐見町・佐々町・新上五島町

●3年連続減少している市町：島原市・西海市・雲仙市・東彼杵町



※新基準値（R6.5月改訂）より
追加された指標

3) 令和 5年度市町別非初回受診者の2年連続受診者割合

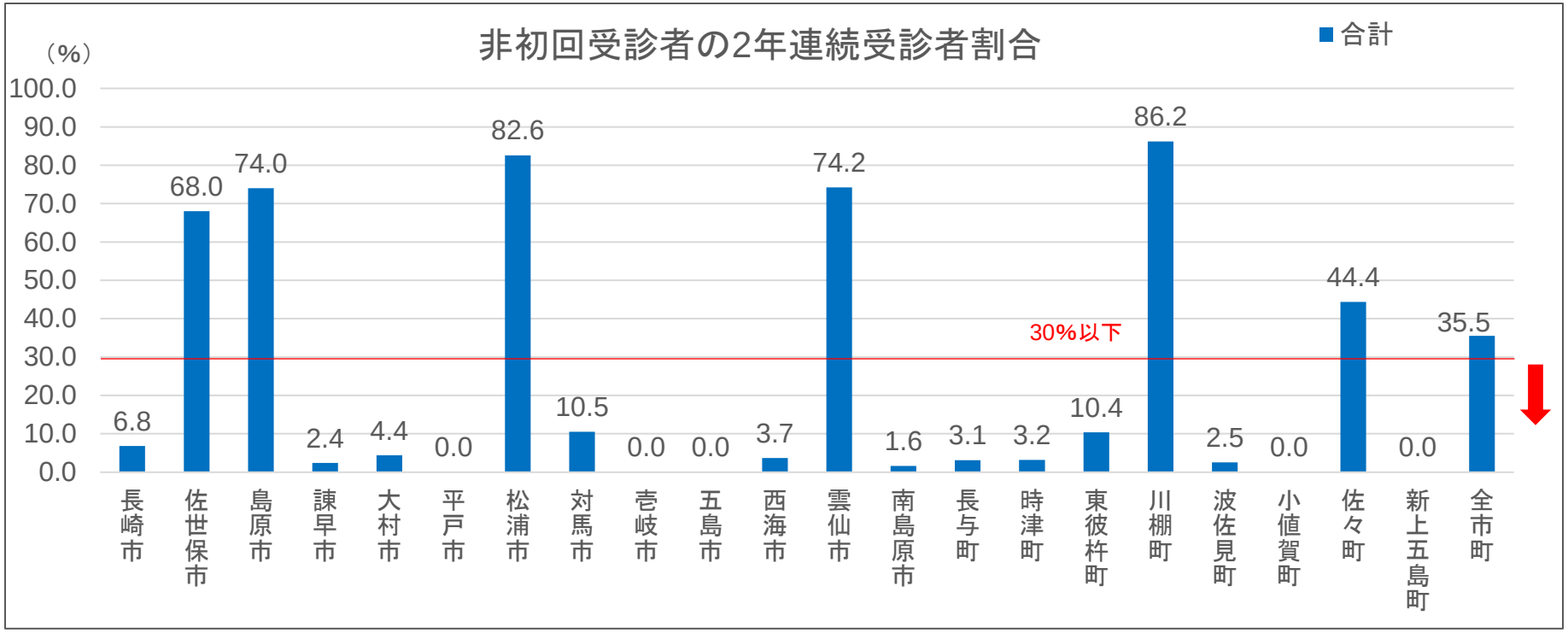
●非初回受診者における2年連続受診者割合
＝2年連続受診者数／非初回受診者数

●非初回受診者：過去3年間(R2・R3・R4)に受診歴のある者
●2年連続受診者：2年連続（R4とR5）して受診した者

●基準値： 30%以下〔40-69歳〕

受診間隔は、「隔年（前年度未受診者・偶数年齢など）」、「毎年受診可」とするなど、市町により差がみられる。

2年連続受診者割合は、市町により大きく差がみられた。
基準値30%を超えている市町は、受診間隔を「隔年」としていないところがほとんどであった。



4) 令和 4年度要精検率

●要精検者数／検診受診者数
●目的：精密検査の対象者が適切にしぼられているか

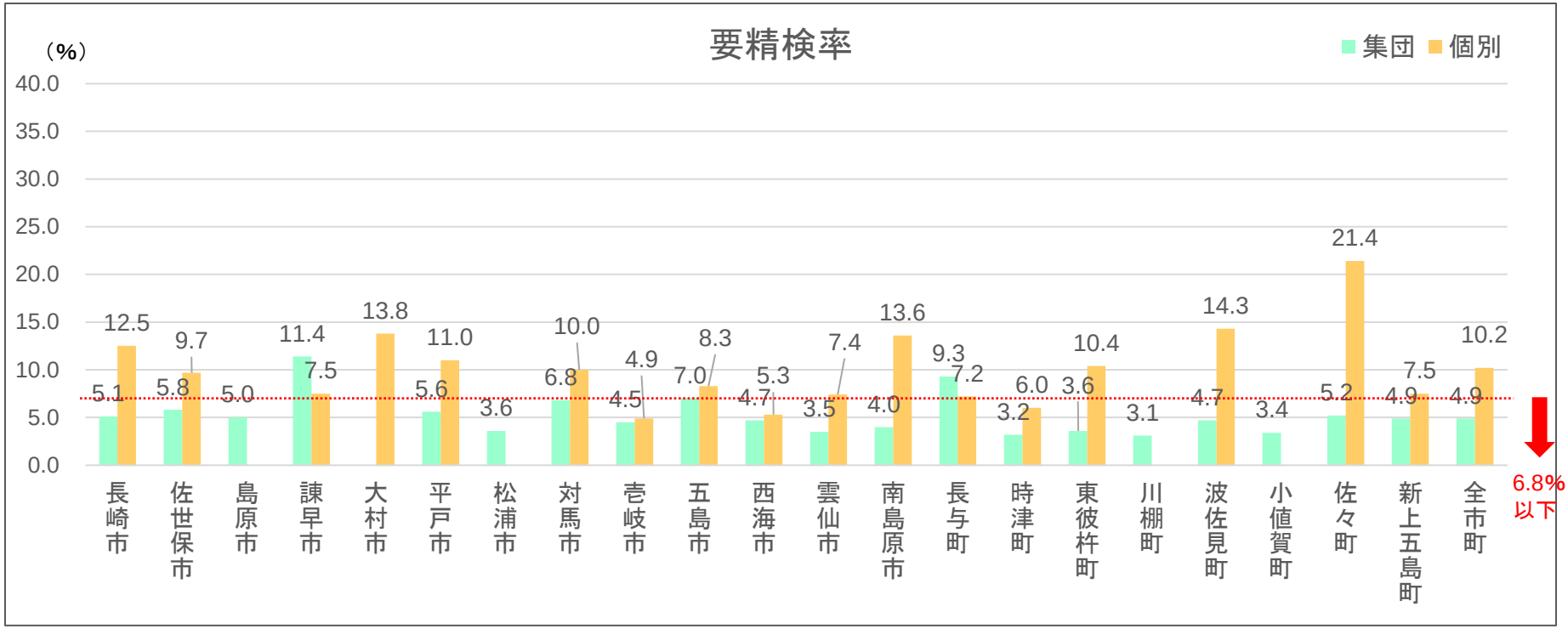
●基準値： 6.8%以下〔40-69歳、2年間隔〕

●高い場合に考えられる原因
要精検者の計上は適切か。
有症状者が、がん検診を受診していないか。

・市町は検診形態でばらつきがある。

・個別検診では要精検率が高い傾向にあり、基準値を満たしている市町は3市町であった。

・県全体としては、集団検診は基準値を満たしているが、個別検診は満たしていない。



5) 令和 4年度精検受診率

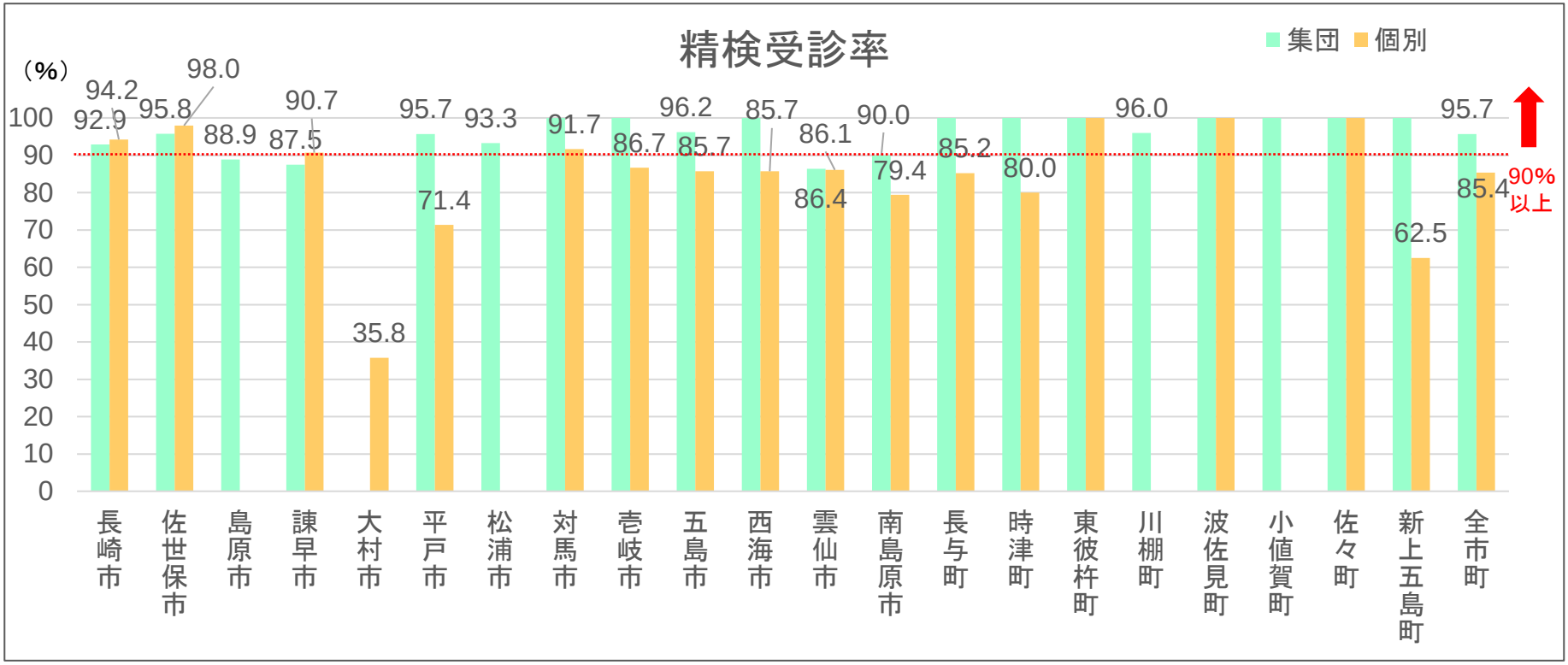
●精検受診者数／要精検者数

●目的:要精検者が精密検査を受診したか。
高いほど良い。(精検受診率が100%近くなければ、発見率を正しく評価できない)

●基準値: 90%以上〔40-69歳〕

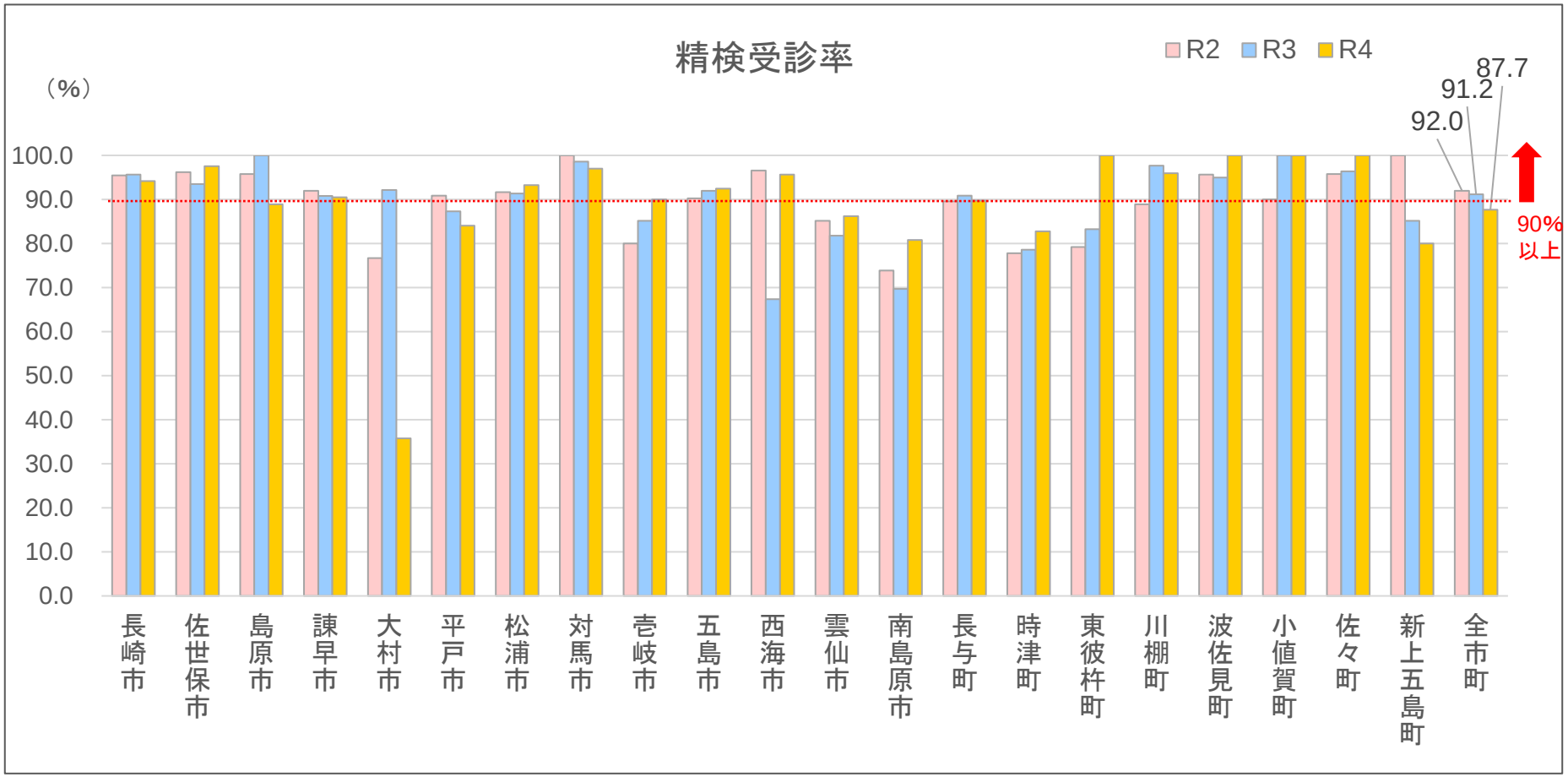
●低い場合に考えられる原因
・精検の受診勧奨が不十分。
・精検受診の有無を市町が確実に把握できる体制が不十分。

・市町や検診形態でばらつきがある。
・県全体では、集団は基準値を満たしているが、個別は満たしていない。



6) 年度別精検受診率

●3年連続90%以上の市町：長崎市・佐世保市・諫早市・松浦市・対馬市・五島市・波佐見町・小値賀町・佐々町
●R4年100%の市町：東彼杵町・波佐見町・小値賀町・佐々町



7) 令和 4年度陽性反応適中度

●がんであった方の数／要精検者数

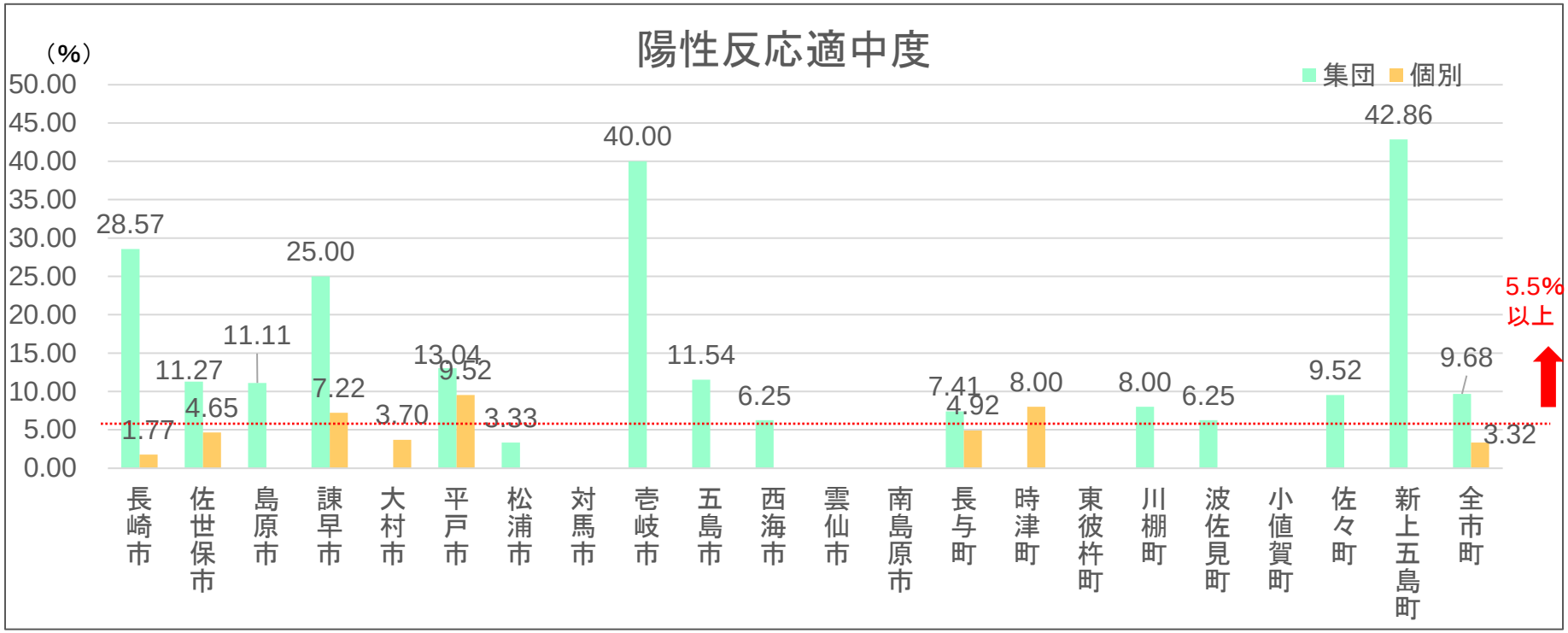
●目的：検診で効率よくがんを発見されたかを測る

●基準値： 5.5%以上〔40-69歳、2年間隔〕

・人口規模が異なるので、市町ごとに評価することは、困難である。

・市町では、ばらつきが多い。

・県全体としては、集団検診は基準値を満たしているが、個別検診は満たしていない。



8) 令和 4年度がん発見率

●がんであった方の数／検診受診者数

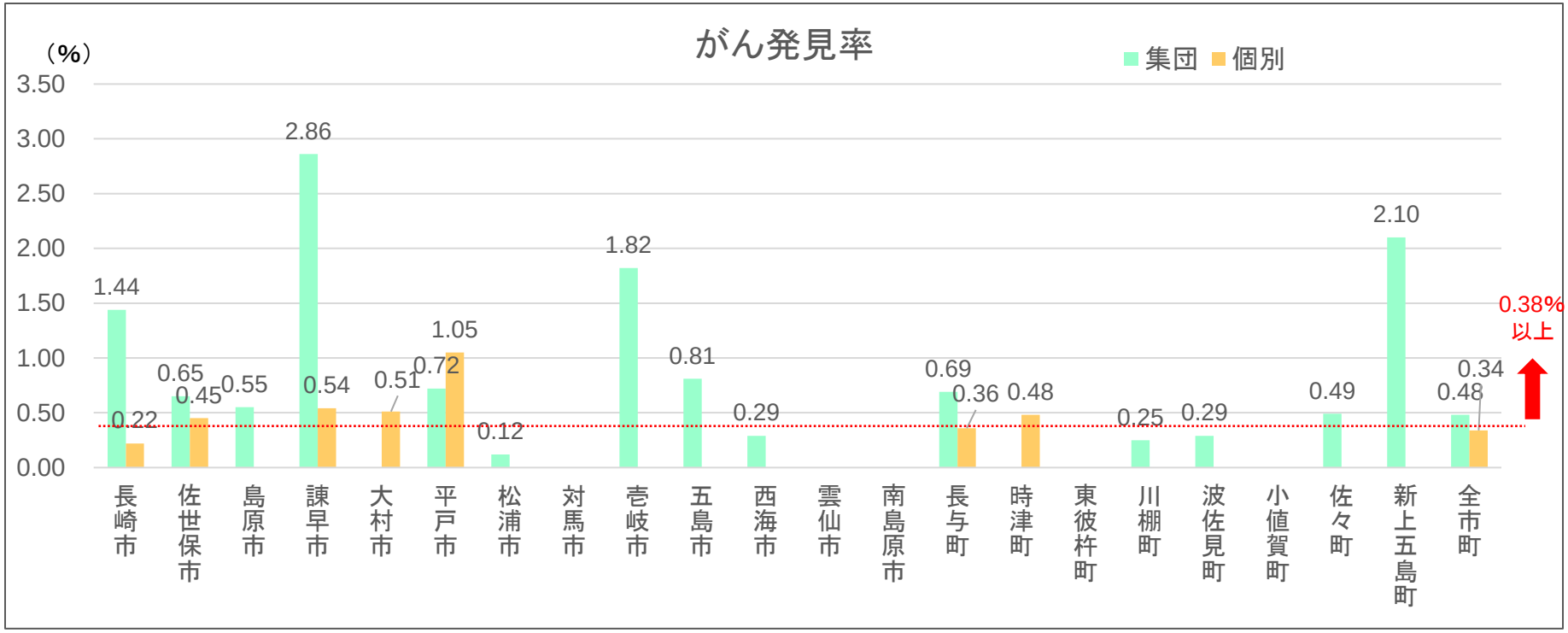
●目的：その検診システムにおいて、適切な頻度でがんを発見できたか

●基準値： 0.38%以上〔40-69歳、2年間隔〕

・人口規模が異なるので、市町ごとに評価することは、困難である。

・市町ではばらつきが多い。

・県全体としては、集団検診は基準値を満たしているが、個別検診は満たしていない。



9) 令和 4年度偶発症

▷ 長崎県では偶発症は報告されていません。

【検診時　もしくは　検診後】

区分	全国		長崎県	
	偶発症確認	死亡数（再掲）	偶発症確認	死亡数（再掲）
集団	…	…	－	－
個別	7	…	－	－
合計	7	…	－	－

【精密検査時　もしくは　精密検査後】

区分	全国		長崎県	
	偶発症確認	死亡数（再掲）	偶発症確認	死亡数（再掲）
集団	…	…	－	－
個別	3	…	－	－
合計	3	…	－	－

6.まとめ

受診率、精検受診率について

受診率は市町によりばらつきが多い。県全体として14.3%で、全国37位であった。

精検受診率は、県全体としては、集団検診は基準値を満たしているが、個別検診は満たしていない。

要精検率について

各市町、検診形態（集団、個別）によりばらつきがある。個別検診では要精検率が高い傾向にあり、基準値を満たしている市町は3市町であった。

県全体としては、集団検診は基準値を満たしていたが、個別検診は満たしていない。

がん発見率、陽性反応適中度について

人口規模が異なるので、市町毎に評価することは困難である。

陽性反応適中度・がん発見率ともに、県全体として、集団検診は隔年受診の基準値を満たしているが、個別検診は満たしていなかった。